

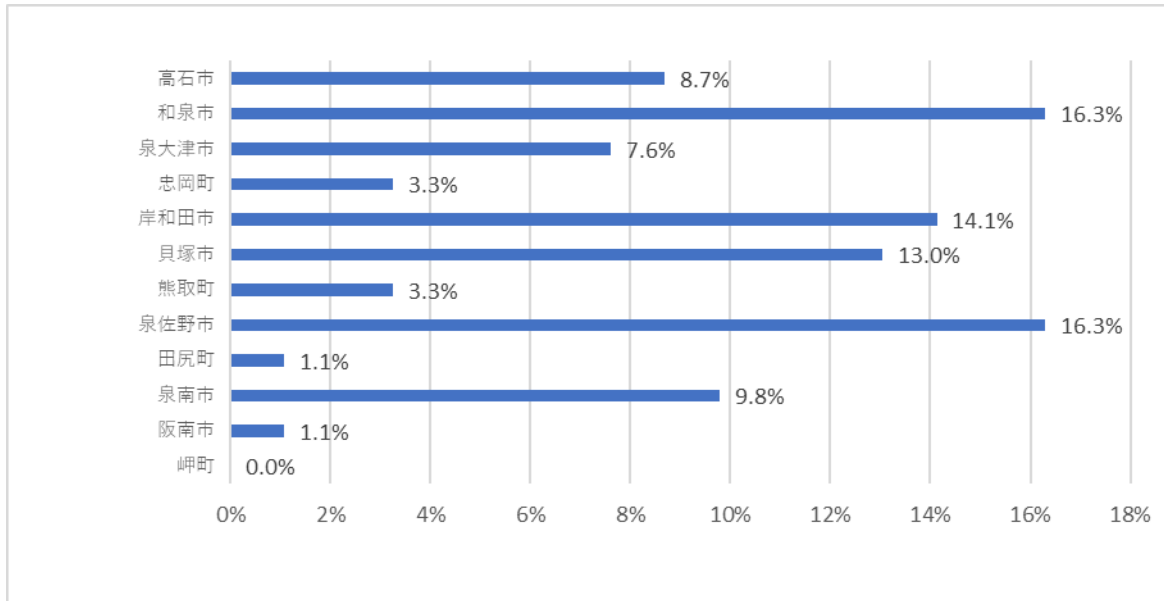
南大阪地域におけるこども食堂の
困りごと調査2025

全アンケート結果

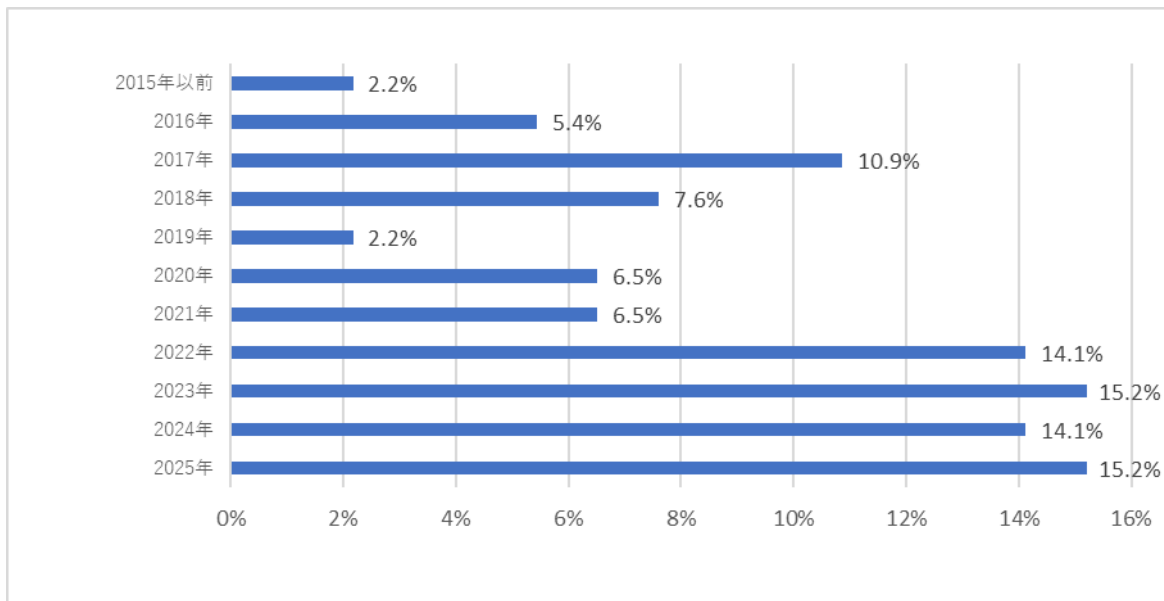
2026年2月

NPO 法人キリンこども応援団

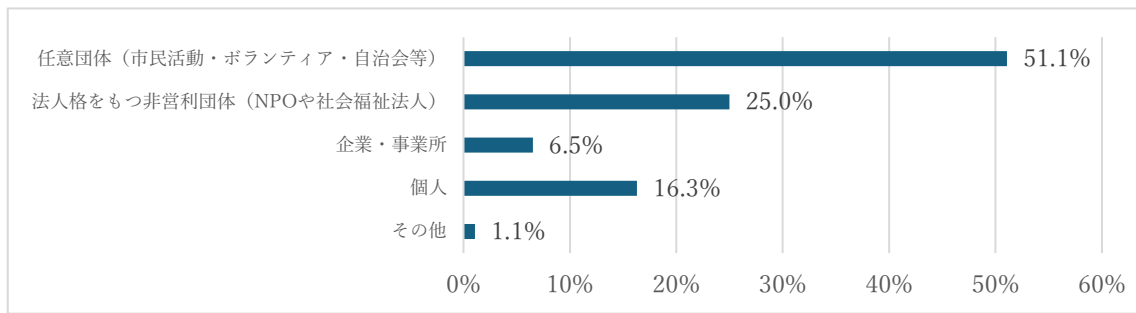
質問4. 活動する所在地の自治体を教えてください。(あてはまるもの1つ) n=92



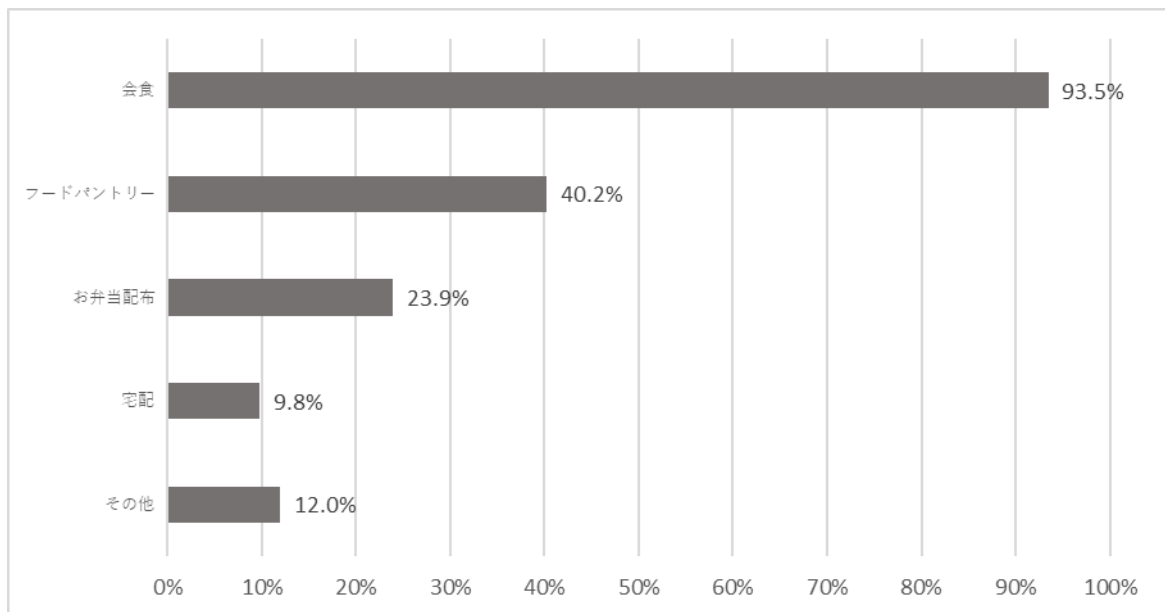
質問5. 活動を開始した年を教えてください。(西暦で回答してください) n=92



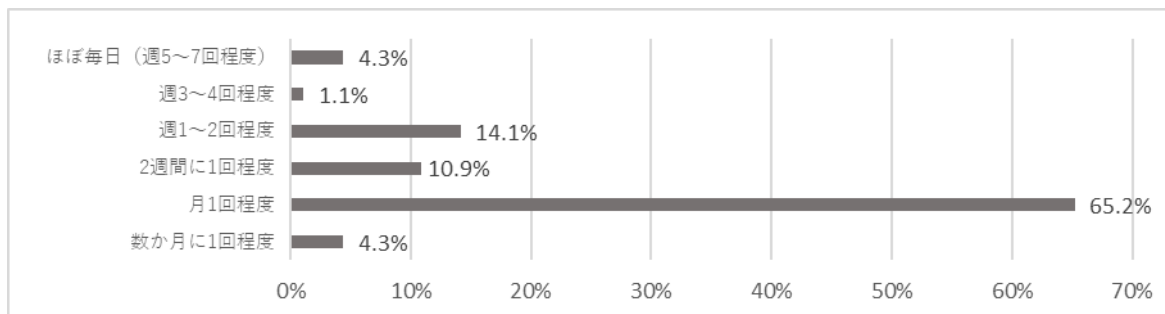
質問6. 活動する運営団体の組織について教えてください。(あてはまるもの1つ) n=92



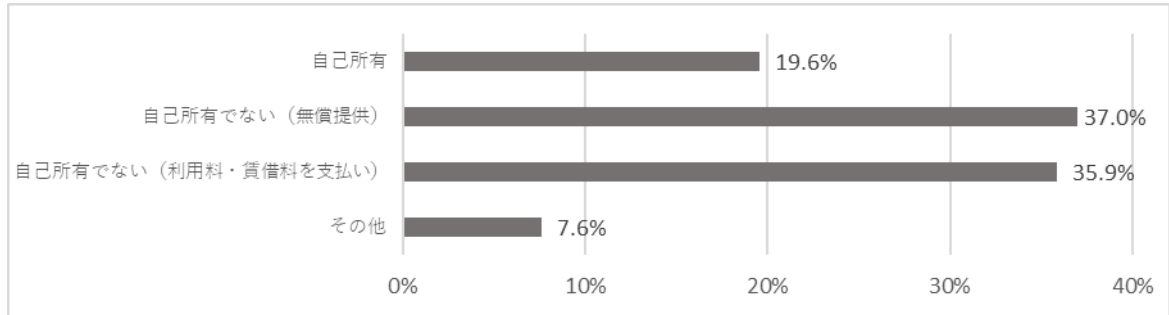
質問7. 活動内容を教えてください。あてはまるものすべてを選択してください。(あてはまるもの全て) n=92



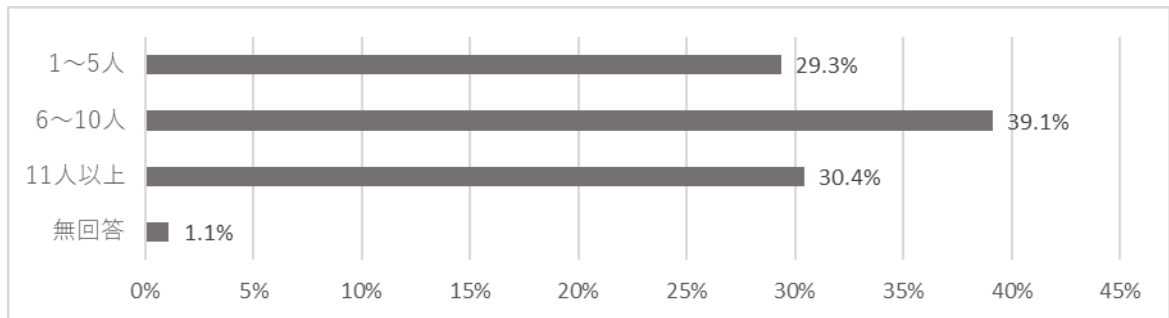
質問8: 開催状況について教えてください。(あてはまるもの1つ) n=92



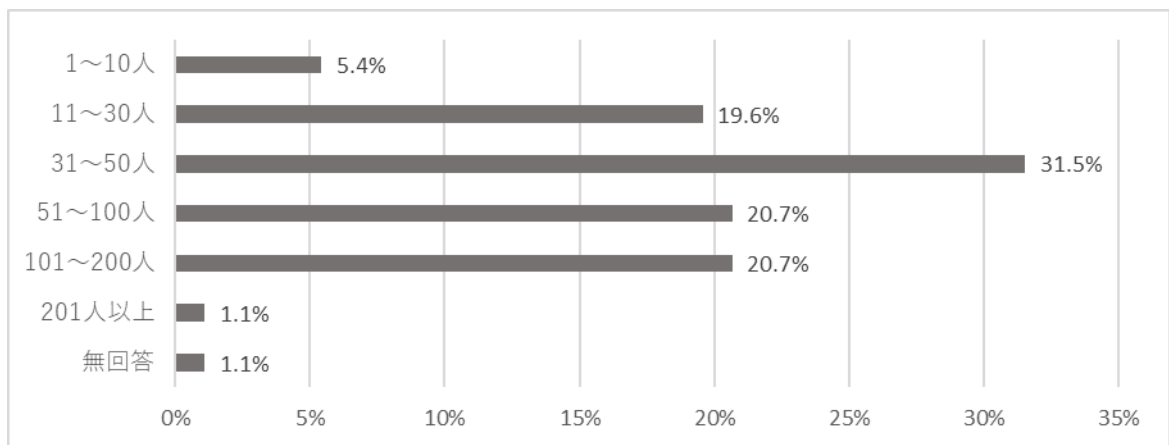
質問 9：活動場所について教えてください。(あてはまるもの全て) n=92



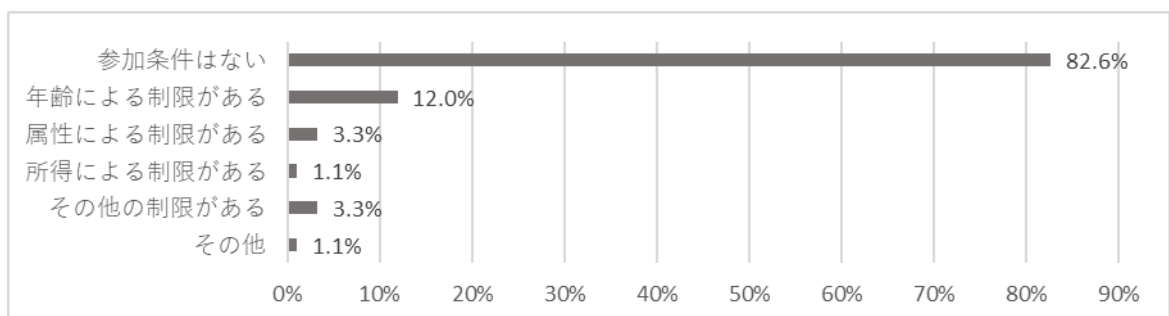
質問 10：こども食堂等に関わるスタッフの合計人数を教えてください。
ボランティアスタッフを含みます。(あてはまるもの1つ) n=92



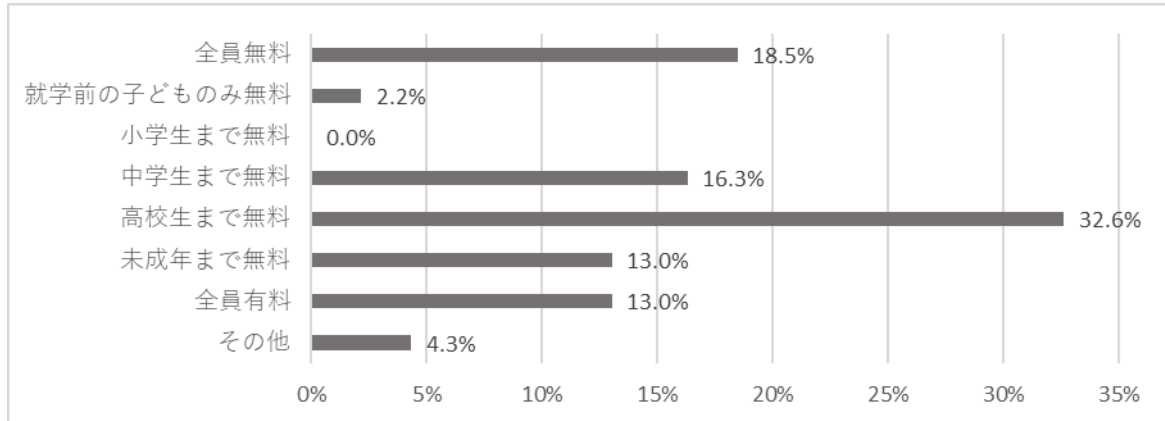
質問 11：こども食堂等を開催する際、1回あたり平均で何人くらいの参加がありますか。
(あてはまるもの1つ) n=92



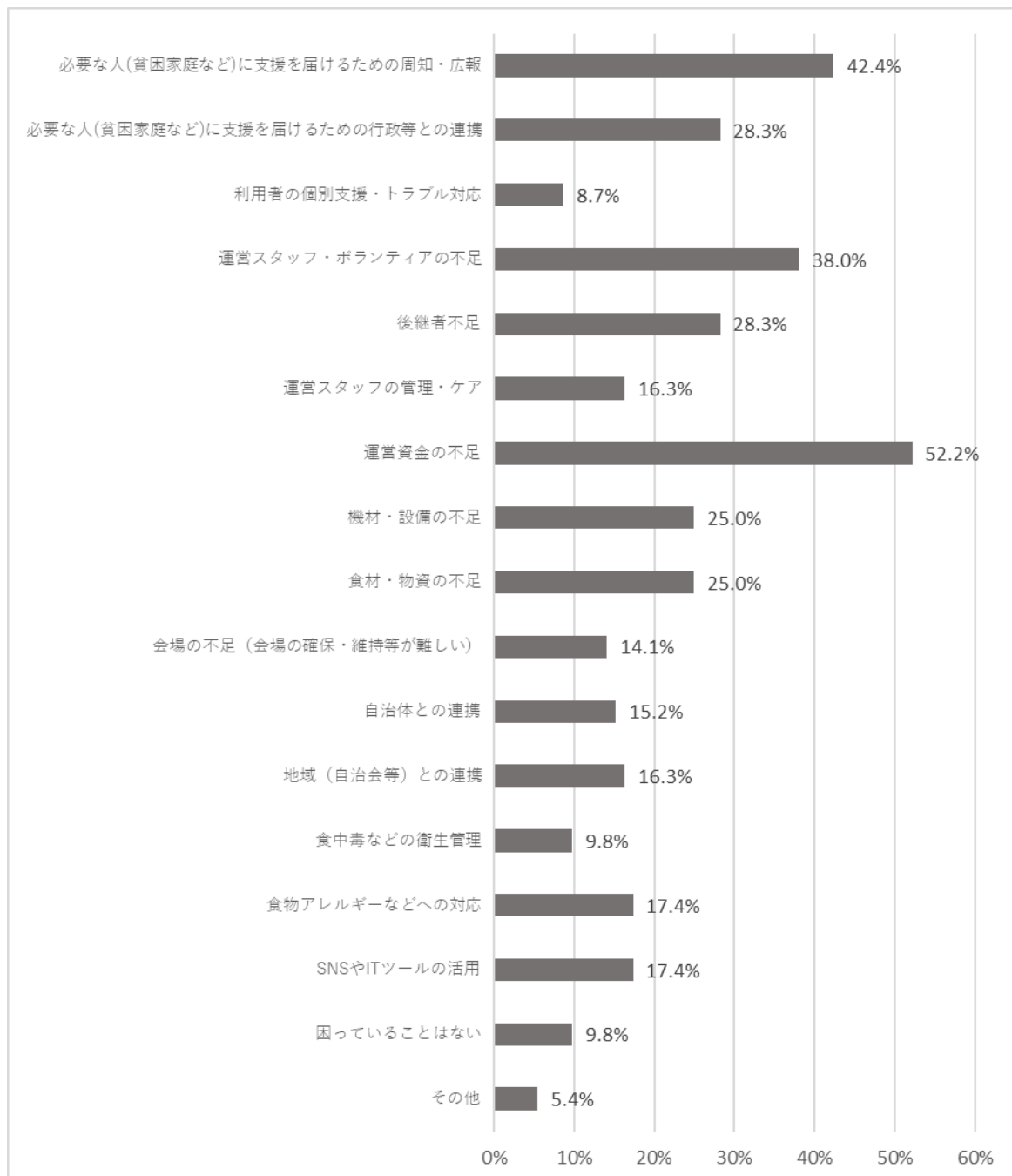
質問 12：こども食堂等に参加する条件があれば教えてください。(あてはまるもの全て) n=92



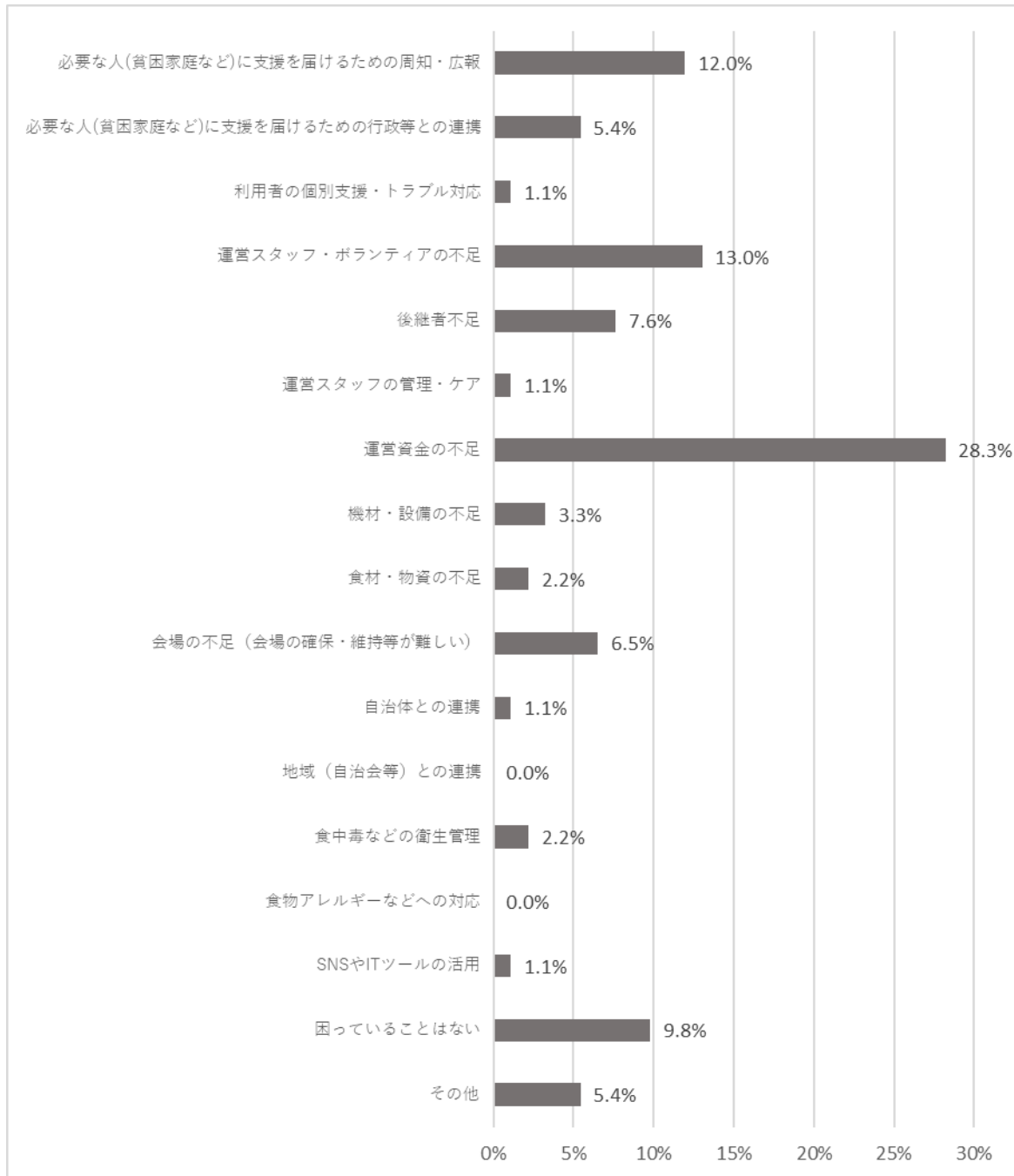
質問 13：こども食堂等に参加するには、参加者の費用負担を求めていますか。 n=92



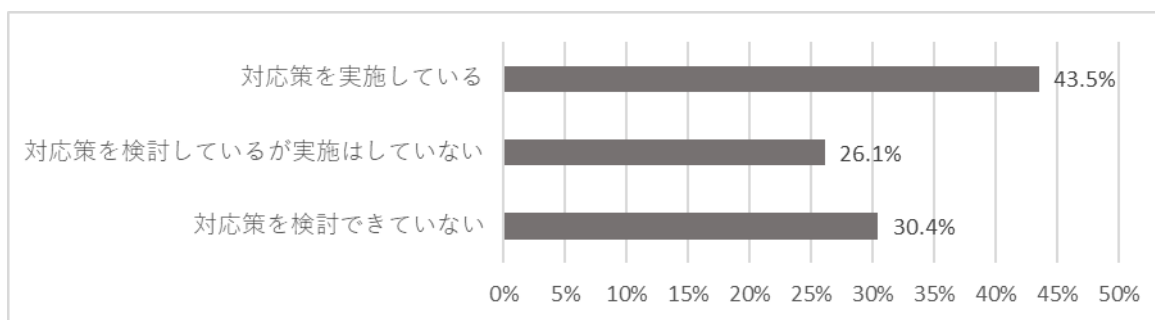
質問 14：こども食堂を運営するにあたり、困っていることがあれば以下の選択肢から該当するものを☑してください。(あてはまるもの全て) n=92



質問 15：こども食堂を運営するにあたり「一番困っていること」について以下の選択肢から☑してください。(あてはまるもの1つ) n=92

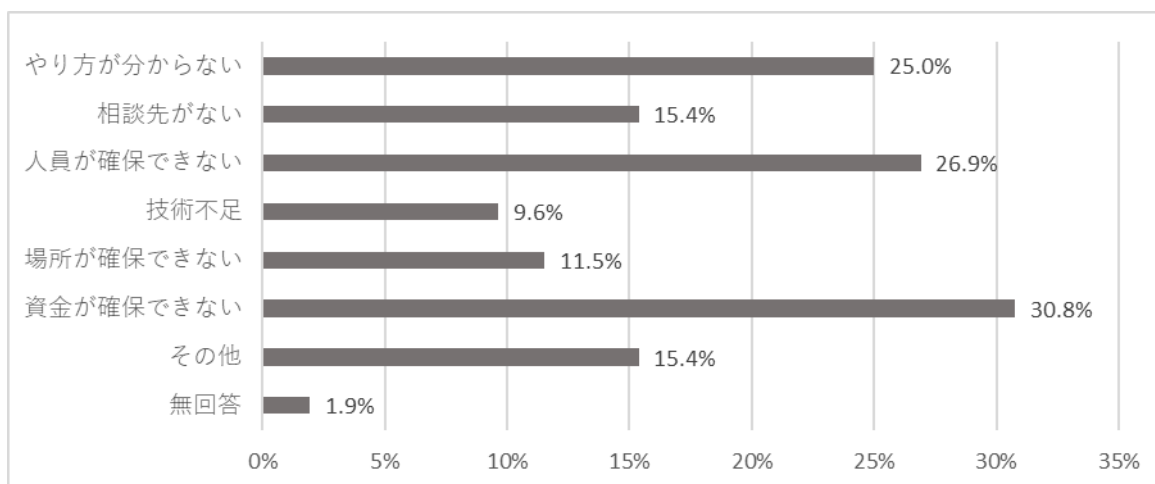


質問 16：質問 15 でご回答いただいた「一番困っていること」について、現在、対応策を実施することはできていますか。 n=92

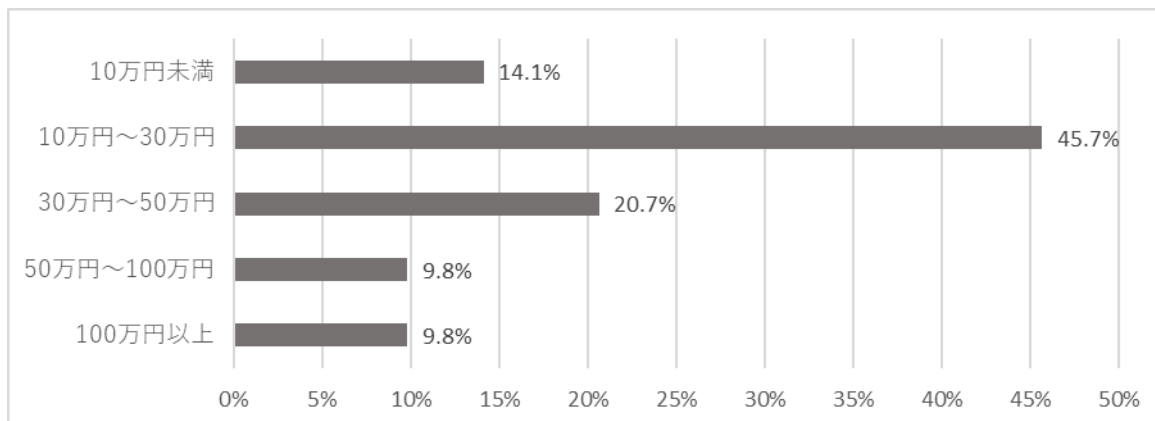


「対応策を検討しているが実施はしていない」または「対応策を検討できていない」と回答された方のみへ質問です。

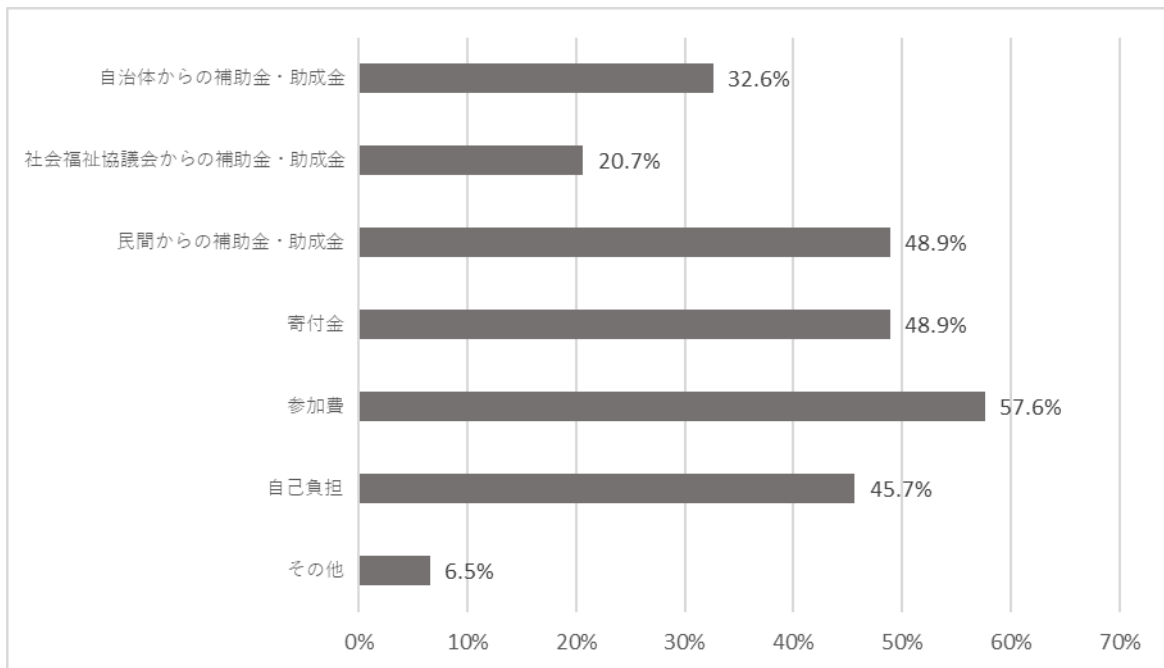
質問：対応策を実施または検討するにあたって、支障となっていることは何ですか。（あてはまるもの全て）



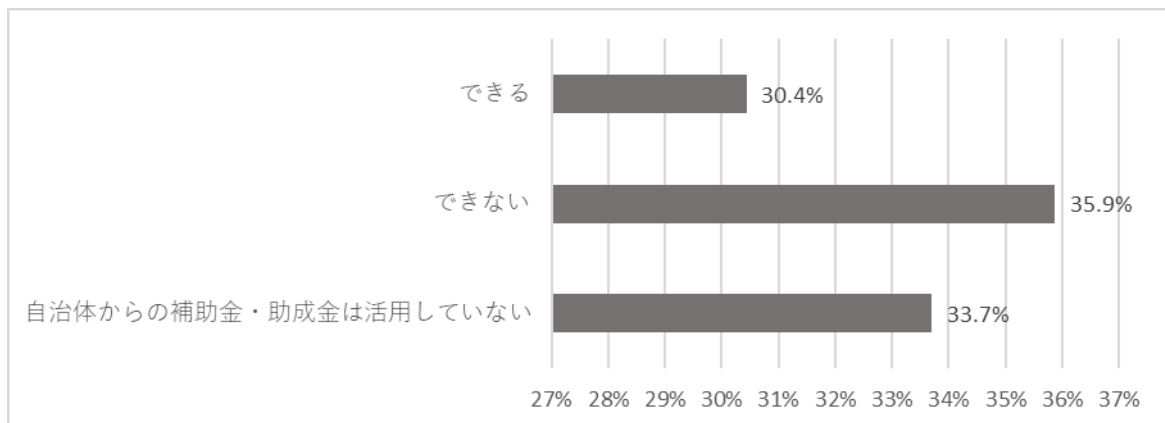
質問 17：年間の運営費について、おおよその金額を教えてください。（あてはまるもの1つ）
n=92



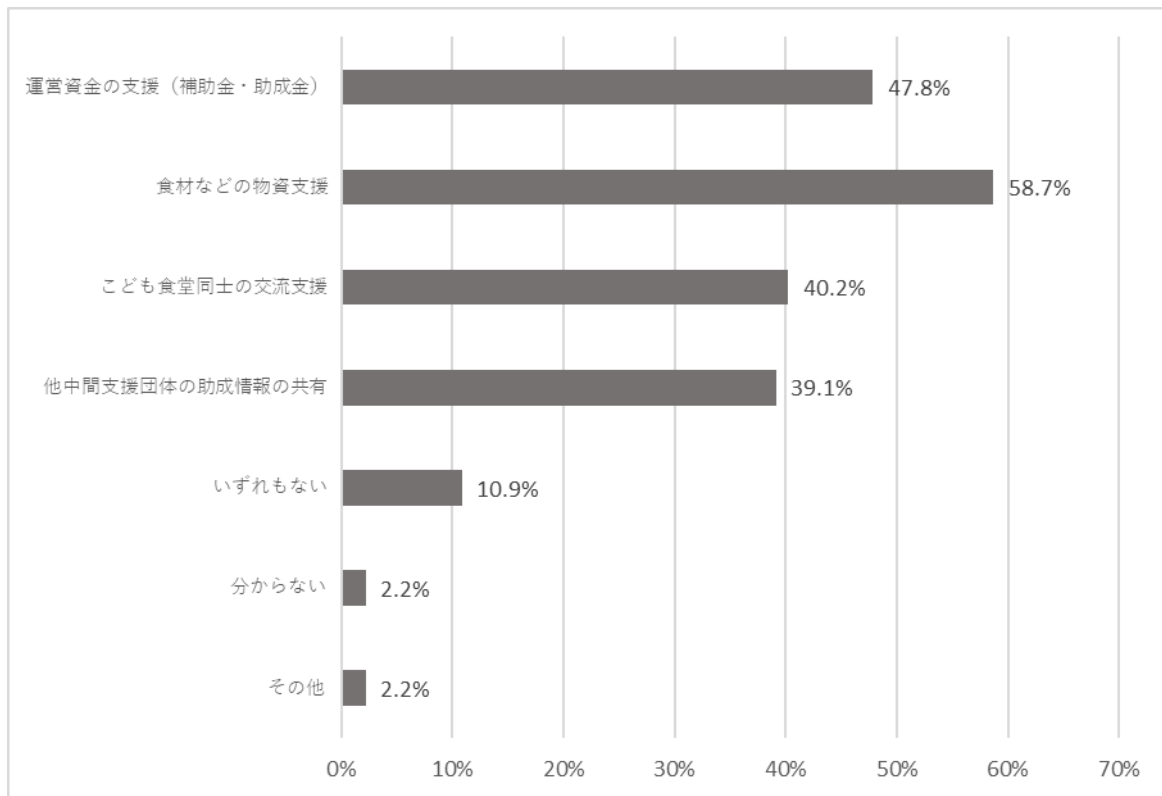
質問 18：上記のこども食堂の運営費について、どのような方法で調達していますか。（あてはまるもの全て） n=92



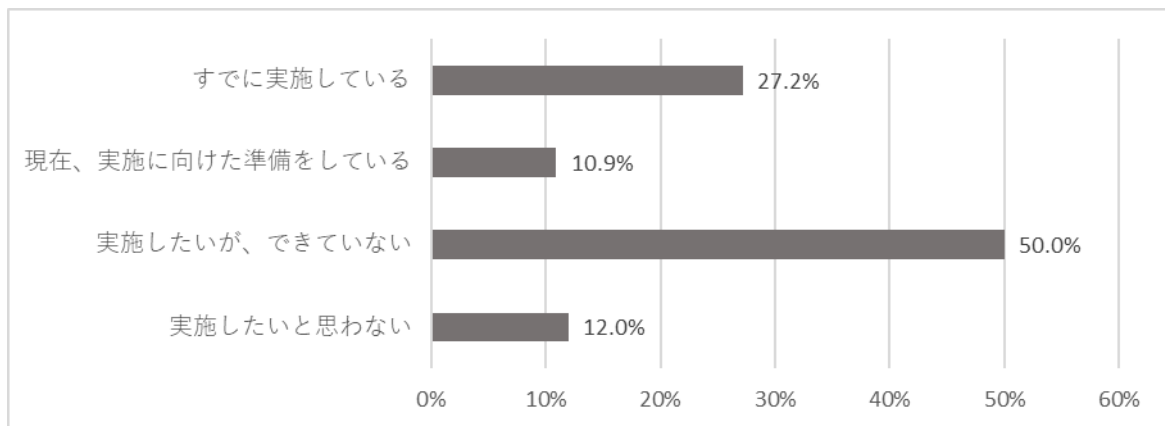
質問 19：自治体からの補助金・助成金がなくなった場合でも運営していくことは可能ですか？ n=92



質問 20：こども食堂の継続にあたり、所在する自治体で実施している支援であてはまるものは何ですか？（あてはまるもの全て） n=92

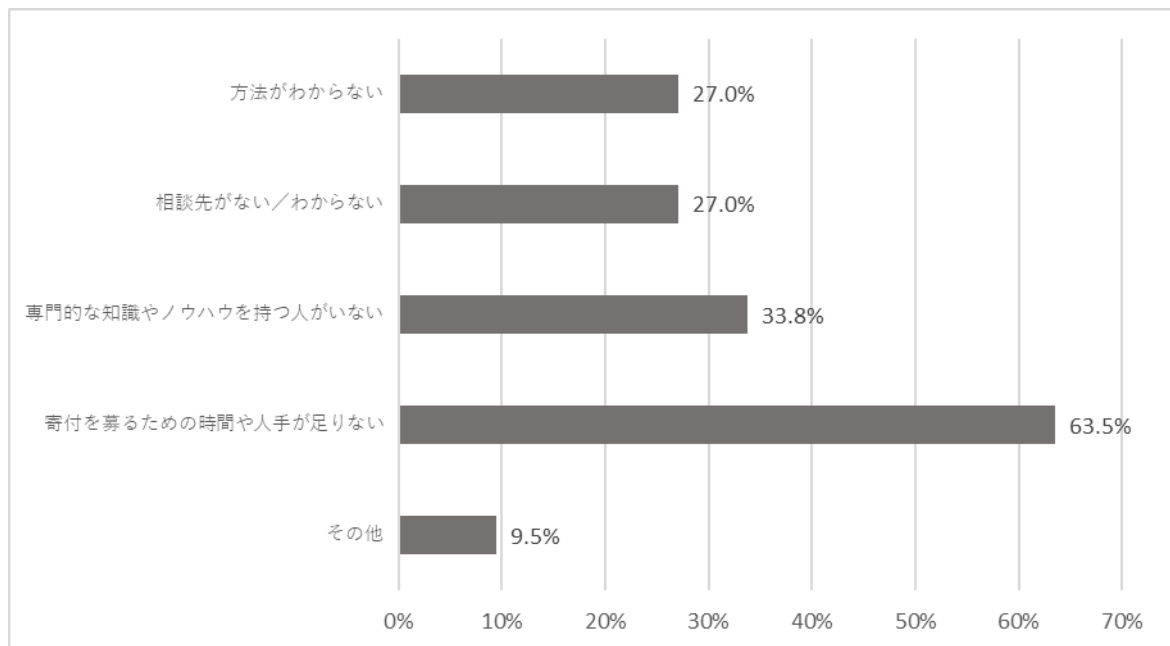


質問 21：こども食堂を継続していくため、個人や企業などから寄付金を集めるための取り組みを行っていきたいと思いますか？ n=92



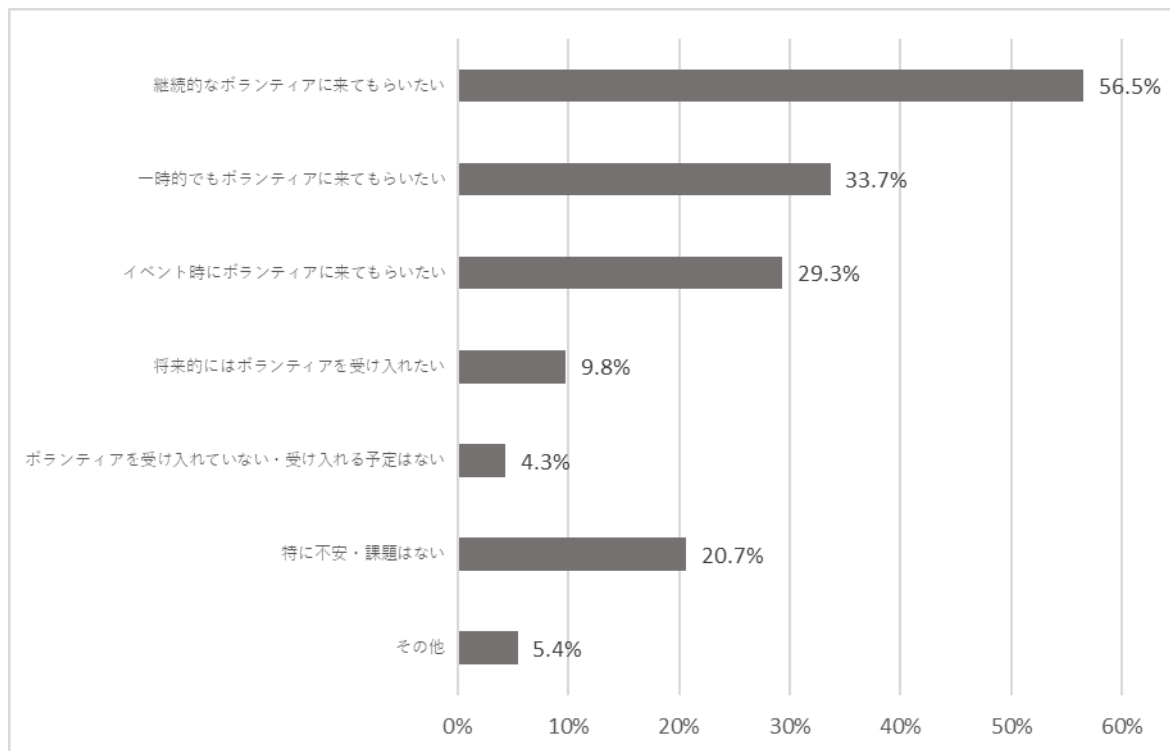
「すでに実施している」「現在、実施に向けた準備をしている」「実施したいが、できていない」と回答された方のみへ質問です。

質問：そのような取り組みを行う/継続するにあたって、どのような不安・課題などがありますか。(あてはまるもの全て)

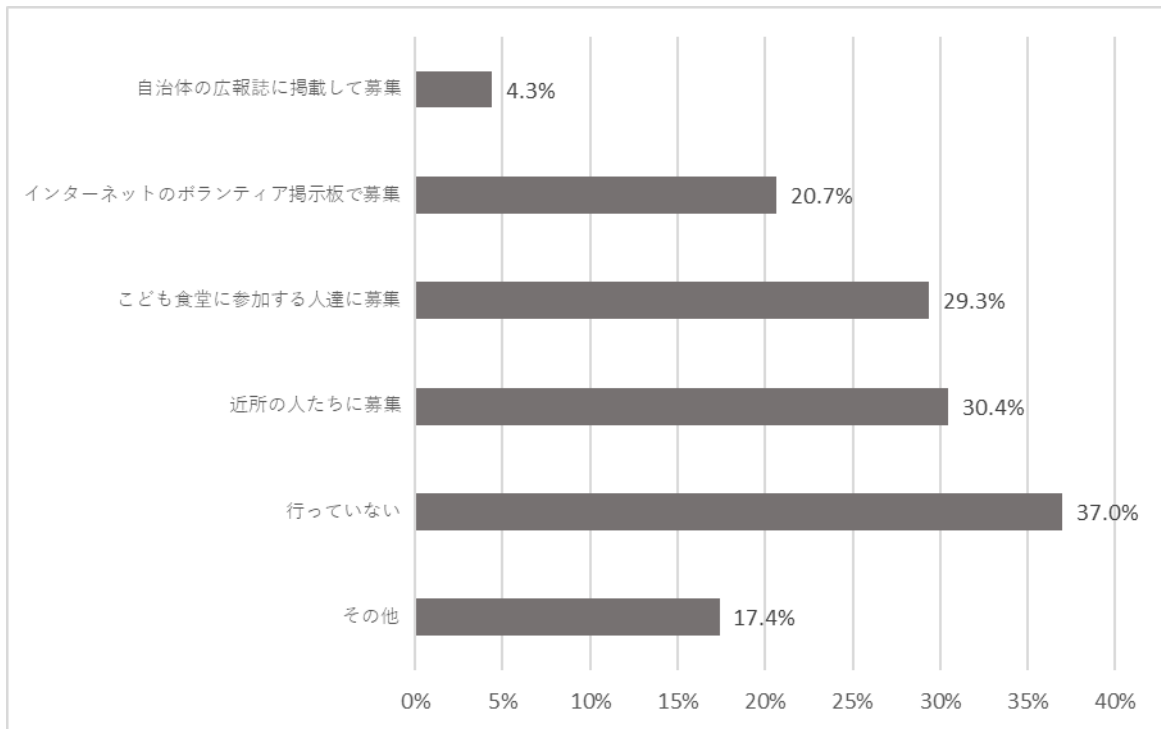


質問 22：ボランティアの受け入れ希望について教えてください。(あてはまるもの全て)

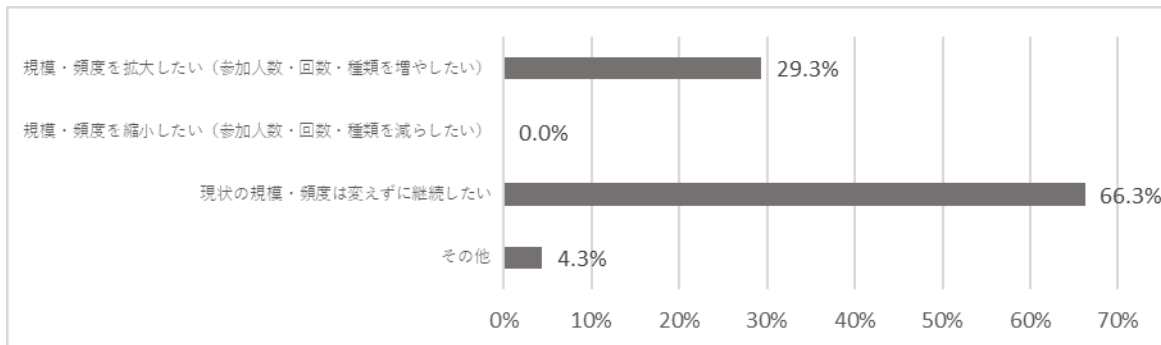
n=92



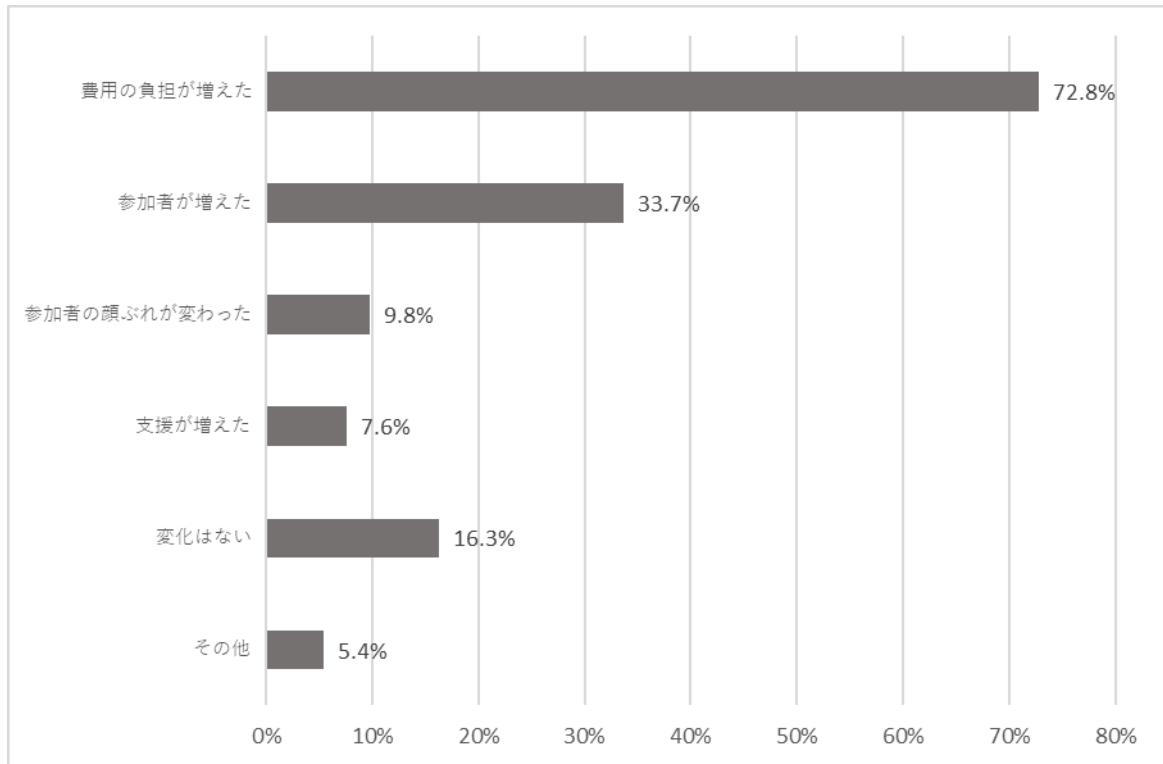
質問 23 : ボランティアを受け入れるために具体的な活動はしていますか。(あてはまるもの全て) n=92



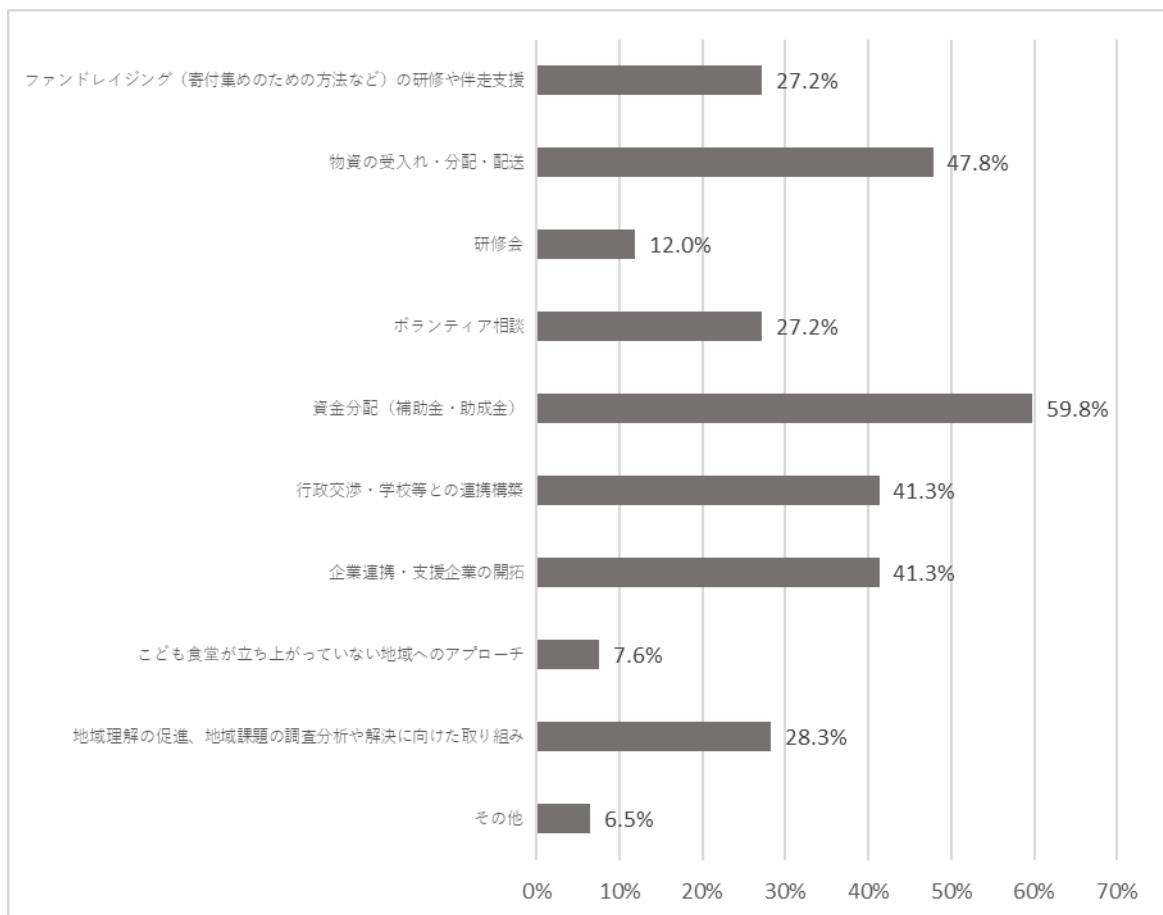
質問 24 : 今後の活動について、教えてください。 n=92



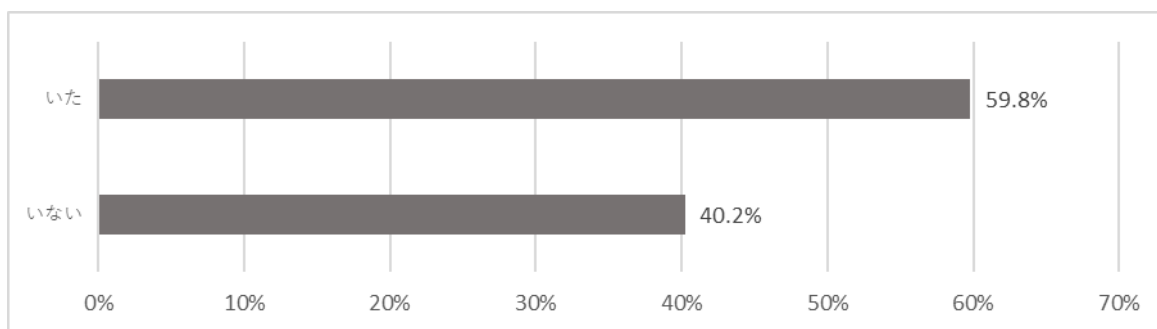
質問 25：昨今、物価上昇が著しいですが、こども食堂等の運営にどのような影響が出ていますか。（あてはまるもの全て） n=92



質問 26：こども食堂を継続して活動していくために、どのような支援を必要としていますか。（あてはまるもの全て） n=92

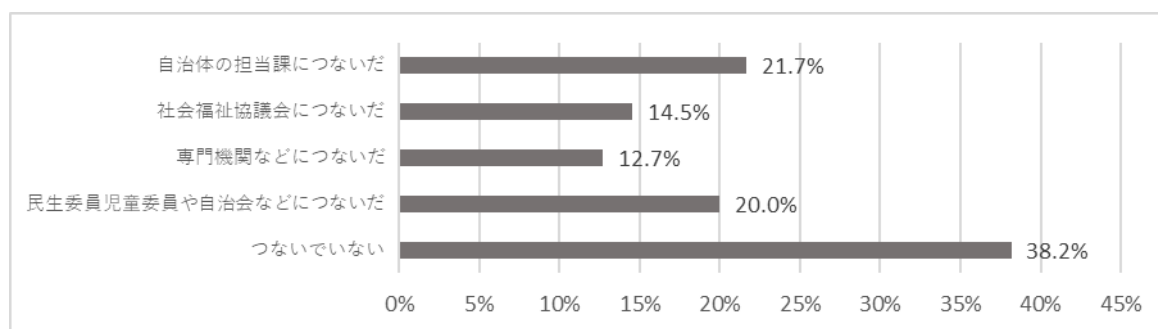


質問 27 : 直近 1 年間程度で、こども食堂に来た子どもや保護者・家庭等で、気になる人はいましたか。 n=92



「いた」と回答された方のみへ質問です。

質問 : 気になる子どもや保護者、家庭等について、自治体や専門職・専門機関、地域の支援者等に相談したり、状況を話して意見をもらったりした経験はありますか。(あてはまるもの全て)



質問 28：こども食堂を長く継続していく地域をつくっていくために、アイデアやご感想などがありましたらご記入ください。

以下、原文まま（一部、個別の団体名の記載等を修正）

地域の貧困問題や孤立化の問題、地域コミュニティの希薄さは、こども食堂があるからいい、そこで解決してもらおうということではなく、根本的に行政が制度や社会保障で担っていくものだと思う。いちボランティアでできることは限られており、その範囲をこえた役割になっていないかと感じることがある。明らかに金銭的に困っている人でなくても、その人それぞれの困りごとや悩みがあり、居場所を必要としている方は多い印象だが、しんどい人ほど出てくるのが難しく、コミュニティや支援につながっていない。参加者は増えてほしいが、増えると来にくい人（学校での居場所がない子どもや障害児など）も出てしまうので、たくさん来ればいいというものでもないのが難しいところ。それぞれの場がそれぞれの参加者にとって安心できる居場所づくりを続けていくことが大切かなと感じている。また、居場所同士の横のつながりをつくり、情報交換・共有ができればと思う。

やはり、場所の問題と働いてくれる人への給料を確保しないとなかなか続けられません。行政も、丸投げです。出来れば、行政が積極的にシアキッチンのような皆で共同で使用出来る場所など提供して頂けるとありがたいですね。

ボランティアという概念が日本の世の中で変わらない限り、長い継続は難しいと思う

主要メンバーの継続に対する強い想い、信念

始めて一年足らずであり、試行錯誤中である為、思いつく事はありません。

自己負担でやっているところが多いが、光熱費・人件費・設備投資をなんとかできないか、方法を考えてほしい

場所（公民館市町村）が空いているにも関わらず公民館使用規定により、制約が多い。有効活用出来るよう市町村の公民館使用規定等、変更が必要。少なくとも、大阪府の南地区の市町村の良い点を導入して頂きたい。市に交渉したが、規定の変更は、ハードルが高そうです。

来るものは拒まず、すべての子ども・大人はいったん受け入れること。

同じ思いをもつボランティアの団結力

子育てネットワークや発達障害施設とのつながりから食材の提供（子ども食堂）を通して地域の居場所づくりにつながっていくものと思います。

自分達が無理せず頑張っていけたらと思います

地域に根ざした活動、子ども食堂＝貧困イメージを払拭出来るような広報活動、利用者との関係性の構築

地域の子供食堂の合同イベントとがあればいいのではないですか。

各学校などで、子ども食堂マップを掲示したら、困っている子供たちも、困っていると思われ
たくない子供たちも来やすくなるのではないかと思う。

行政ともっと関わりを持てる環境が欲しい

元々営業許可のあるお店などからも自治体が募集し、子ども食堂開設支援をし、いつでも子
ども食堂に行けるのが普通の世の中になればいいな、と思う

地域の方にしてもらえそうなイベントを開催していく予定です

世代によって子ども食堂に対する認知に差があるように思います。親の怠慢、甘え、地域の差
などという方々もいます。もっと子ども食堂の実態、意義、方向性を発信していく必要がある
ように思われます

地域、関係機関、住民の方々に、広く周知できるように SNS 等を活用した広報に努めていく。

現在継続してやっていることや支援・協力関係であるが、広報紙の町会・学校園・相談機関・
行政への配布・回覧、寄付金・野菜等の食材を寄付いただいている方や団体との継続的な関
係、人形劇上演による子どもが文化に触れる機会の実施、社会福祉協議会のサポート・情報提
供・助成金交付、会場として利用している町会館の町会による利用提供・協力、相談機関のコ
ミュニティソーシャルワーカーとの協力・連携といった地域や住民との支援・協力関係があっ
て、活動継続ができていと感じている。学校との連携が必要と感じているが、校長や教頭の
考えにより子ども食堂への関わりへの温度差があり、つながりがうまくもてていない面があ
る。仕組みとして、学校と子ども食堂をつなぐ情報交換や課題共有のための会議等の場があれ
ば、より連携し、子どもへの支援を進めていくことができると考える。

行政や専門職、社協、他のボランティア団体とのネットワークを作り、ケース会議などを行い
支援できる様になればいいと思う。

個人では食堂名での銀行口座が作れない為、企業や基金からの支援金を受けることができま
せん。個人でも支援金を受けれるシステムでないと子供食堂は広がりません。やる気のある人
が誰でも開催できるようなシステムを作らないと後継者も現れません。活動実態を見ての支
援金が欲しいです

毎月 1 回第三日曜日開催するため、前日の夜 6 時～約 2 時間ほど下ごしらえをします。翌日
の朝 7 時から準備し始め 8 時半～9 時半まで食事の提供をします。ゆっくり食事をしていた
だき後片付けをして終了するまで午前中いっぱいはかかります。福祉委員の協力員のみなさん
は楽しく頑張ってくれています。本当にありがたくこれからもずっと続けていくようにと
願っています。

- ・地域全体で見守りネットワークを作り、子ども食堂を中心に福祉、学校、自治会がつながっ
ておく
- ・地域イベントなどとコラボして交流の場を作る

地域社会に存在していることを広く知ってもらう事

楽しみつつ、根気よくいかに続けられるか。

背伸びをせず地道にいけば自然と子ども達が来てくれます。

地域と一体となりみんなが楽しめる様な子ども食堂を続けていきたいと思います

私たちは、地域の皆さまの居場所づくりを目指しながら活動を続けております。上は 90 代から下は 10 代まで、国籍や言語、性別を問わず多様なボランティアの方々と共に取り組んでいます。ただ、長年の活動の中でボランティアの高齢化も進み、若い世代への継承が大きな課題となっています。SNS などでの発信や地域イベントへの参加を通して認知度向上に努めていますが、日々の運営に追われる中で十分な発信ができないこともあります。

子ども食堂を長く続けていくためには、私たちの団体だけで支えるのではなく、地域・学校・企業・行政などが一体となって支え合う仕組みが必要だと感じています。学生ボランティアや地域の若い方々が気軽に関われる環境づくりや、協賛企業との連携を強めることで、持続可能な活動につなげていければと思います。

地域の皆さまと一緒に、子どもたちが安心して笑顔で過ごせる場所をこれからも守り育てていけるよう努力してまいります。今後の取り組みとしましては、SNS 担当の「学生広報チーム」の結成や、配信など、各人の好き・得意に合わせた形での広報活動なども出来ればと考えております。

いつもお世話になっております。南大阪子ども食堂ネットワーク交流会では、出会の場や情報、食品支援の提供をいただきありがとうございます。

子ども食堂の継続では、毎日の活動をこなしながら、なんとか維持することに精一杯です。困りごとを法人職員や、また他の子ども食堂さんとゆっくり話し合う時間が持てていないのが現状です。私の市でも独自の子ども食堂ネットワークができればと思っております。

地域の人々へ子ども食堂に参加して頂き、地域全体で子ども達を見守る意識を高めて欲しい。

助成金の継続、地元の方の協力

多世代交流の場を目的にしているので、気楽に来れる様な雰囲気を作る。

専門家の方も参加してもらって該当者対応をしてもらう。

初開催前なので回答が難しいです。

今のような手厚い研修

特に思い浮かびません

まだ始めたばかりなので今のところなし

地域を巻き込んでの周知とボランティア参加促進

実際に貧困家庭といわれるお子さまにも来てもらいたいのですが、そういった方は来られて

いないと感じています。メディア等で「夏休み明けに痩せて登校してくる子が数人いる」と聞いたことがあります。現場の学校の先生がそう感じている生徒がいるなら、学校から「子どもの居場所・子ども食堂」があること、例えば私たちは夏休みなど長期休みには毎日開けていて、昼食になりそうなパントリーを渡しています。一緒にお昼ご飯を食べる時もあります。利用してもらえるように伝わるといいなと感じています。そういう意味で子ども食堂と学校や役所とがもっと連携をとることができたらいいと願います。

誰でも利用できる食堂に名前を変えて生活困窮者だけでなく包括的に地域支援活動ができる場所とするように、社会福祉の観点から活動をしたい。

自己資金では継続が不安なため原状支援や助成金で活動しております。助成金が継続できる環境や食材の提供を今後も継続して頂ければ幸いです。

民間からの資金提供だけでは継続性が担保できない。利用者数、開催回数など実績に応じた行政からの補助金が必要。

模索中です！

資金支援とボランティア支援が必要だと思う

自治体や社協の考え方によりこの泉州地区は特に補助の差はあるように思います。大きい企業ほど平等にとゆうことで自治体や社協と直接対応のところも多く自分たちだけでは対応できない。あいだに入って対応できる自治体、社協の担当がいないので広がりや場所、開催を増やすことはできない。各自自治体や社協とのパイプ役や子ども食堂の必要性をアピールしていくのも広がりを作ることになると思います。

食材の支援は助かる部分もあるが、実際に調理して提供するにはそれなりの調理環境が必要になる。大規模に進めるのではなく、月に1回から始めるのがベスト。子ども食堂を開催できるように自治体の支援があれば、長く継続でき、地域に広がっていくのではないのでしょうか。

ボランティアさんへの還元も必要だと感じています。

コミュニティを広げ輪を膨らませていくことが必要と感じています。その中での他市との協働は賛成ですので今後ともよろしくお願いします。

地域の貧困問題や孤立化の問題、地域コミュニティの希薄さは、子ども食堂があるからいい、そこで解決してもらおうということではなく、根本的に行政が制度や社会保障で担っていくものだと思う。いちボランティアでできることは限られており、その範囲をこえた役割になっていないかと感じることがある。明らかに金銭的に困っている人でなくても、その人それぞれの困りごとや悩みがあり、居場所を必要としている方は多い印象だが、しんどい人ほど出てくるのが難しく、コミュニティや支援につながっていない。参加者は増えてほしいが、増えると来にくい人（学校での居場所がない子どもや障害児など）も出てしまうので、たくさん来ればいいというものでもないのが難しいところ。それぞれの場がそれぞれの参加者にとって安心できる居場所づくりを続けていくことが大切かなと感じている。また、居場所同士の横のつながりをつくり、情報交換・共有ができればと思う。

豊かな人間性を育む地域に

運営者側に無理のない活動である事が、長く継続するにあたって、大切だと、10年ほど続けてきて感じています。また、子供達の笑顔や、ありがとうの一言、きっと子供達の助けになったと、こちらが実感出来る出来事なども、継続の支えになっています。

小さな単位で多くあるときっと子どもたちの様子がしっかりと見え課題把握が進むのではないかと考えます

その都度の顔ぶれ、地域の方々が日知鷓用としているコトを感じて、何かの役に立てる存在になりたいと出入りしている方と交流を深めていけたらいいなあと思います。